



# 幕別町発達支援センター わになって

令和5年度  
第5号

令和5年12月21日発行

寒さが一段と厳しくなり、空気も乾燥してインフルエンザやコロナ感染の流行もなかなか収まりそうにありませんね。今年からコロナが5類に移行して、行動制限がずいぶん緩和された一方で、免疫力や抵抗力はコロナ禍で低下しているともいわれています。子ども達の発達と同じように、免疫力や抵抗力は“適度”なストレスを与えることで力をつけていきます。北海道ならではの厳しい寒さも、心と体を鍛えるチャンス(適度なストレス)になるように、“楽しさ”に変えて年末年始を元気に過ごせるといいですね。

さて、まもなく令和5年度も幕を閉じますが、皆さんにとって今年はどうな1年だったでしょうか？振り返ると多々反省もありますが、皆さんに“必要とされる”ように、職員一同新たな気持ちで来年も頑張りたいと思います。



## 発達支援講演会を開催しました！

11月25日札内コミュニティプラザにおいて、旭川子ども総合療育センターの寺尾章太さんを招き、「**食べることと発達の関係～評価と支援について～**」と題して講演会を開催しました。参加された方もいるかと思いますが、講演の内容を一部お伝えいたします。

### ☆「食べる」ってどういうこと？

「口を開けて」「唇で取り込んで」「舌で押しつぶして」「歯で噛んで」「舌で送り込んで」「食道に入って行く」一連の動きが【食べる】ということになります。食べるために必要な器官は、口唇、舌、歯、上顎や喉が必要になります。無意識に動かしていますが、使うことによって機能が発達していきます。

### ☆「食べること」は「口のこと」だけではありません！

捕食動作(唇を合わせる)はマ・バ・バ行、咀嚼動作(舌を上下に動かす)はナ・タ・ダ行、嚥下動作(飲み込む)は、カ・ガ行など、発音とも関係しています。また、スムーズな咀嚼や嚥下運動を行うには適切な姿勢を保つこと、手や腕を使うこと、食具を操作することも関係しています。全身運動が基礎になっているという考え方が大切です。



### ☆機能が発達するには？

特に哺乳(反射)から離乳食期に、食べ物を取り込む(捕食)、押しつぶす・すりつぶす(咀嚼)、飲み込む(嚥下)といった食べる機能が発達していきます。動かせる器官に合わせて離乳食(環境)を与えますが、与え方によって動き(機能)が引き出されて発達していきます。



### ☆口を上手に使えない子が増えている！？

小学生を対象にした調査では、疾患があるわけではないのに「口がずっと空いている」「口呼吸をしている」など機能が十分に発達していない子ども達が増加しているというお話もありました。日常的に食べることによって、口腔器官と機能は当たり前前に発達していくように感じますが、発達の最適期を逃した場合や生活習慣などによって当たり前前に発達しない子ども達が増えていくかもしれません。



## 学齢期の支援についてのご案内



令和5年度から【放課後等デイサービス】事業として実施しており、概要についてご紹介します。

【目的】 ルールのある遊びや、場面を設定したやりとりなどの中で、人と上手に付き合うための方法やコミュニケーションのとり方など、集団生活を楽しく過ごすために必要な支援を行います。

【対象】 情緒面、社会性の困り感から、集団生活になんらかの課題をもつ12歳(小6)までの児童で、特別支援学級在籍の有無は問いません。同等の支援が別な場所で受けることができる場合(言語通級指導教室(南小)、民間の放課後等デイサービス)、併用はできません。

【支援の量】 最大月3回の実施です。※月によって2回になる場合もあります。

【療育内容】 低学年は小集団療育、中学年以上は個別を基本としていますが、個々の必要性により柔軟に対応しています。集団によって内容が変わる場合もあります。学校との連携を意識し、年2回の所属訪問や個別面談も行います。困り感の表出から、何らかの支援、機関につながるまでの「つなぎ」としての役割を重視しています。

【問い合わせ】 発達支援センター TEL:54-6533 E-Mail <hatatsushien@town.makubetsu.lg.jp>